

一応供覧	文書分類	保存年限	13510永	
議長	局長	書記	主任	担当



令和6年11月27日

津南町議会議長 恩田 稔 様

議席番号5番

議会議員 久保田 等



一般質問の通告について

令和6年12月11日開会の第3回定例会に下記のとおり一般質問をしたいので、津南町議会会議規則第61条第2項の規定により通告します。

記

質問事項	質問の要旨	答弁を求める者
1) 基幹産業である農業の今後について	<p>各集落からの「地域計画」の作成により現状把握ができ、今後の方向性が見えてきたと思うが15年先の津南町の農業は変わっていくか。</p> <p>またそれに対して町は今後津南町の農業をどの様に維持し発展させていこうとしているのか。</p> <p>下記5点について伺う。</p> <p>① 法人への農地集積が進み、中小規模農家は減少していくと思うが、そのために圃場整備（基盤整備）が必須になるが、今後の基盤整備はどのような計画になっているか伺う。</p> <p>② 今後は益々法人に頼らざるを得ない状況になると思うが、既に手いっぱいバンク状態になっている法人も見受けられる。</p> <p>ここ5年間で大小合わせて約15社もの法人が立ち上がったが、既に廃業した法</p>	町長



人もあり、今でもいくつかの法人で取締役また従業員が辞めていっているというような話を聞き、法人経営の厳しい現状が察しられる。町としてはそのことをどう思っているか伺う。

また、立ち上げたばかりの法人に対してどのような支援をしてきたか、また、考えているか伺う。

③ 津南町はスマート農業を進めているが、上郷川西地区のような棚田地区においては畦畔が大きくなり過ぎてこれ以上の基盤整備は難しいと思われる。

よって、自動運転等の取組も難しく、5畝ほどの田んぼ全てに自動給水栓を付けることは経費がかかりできず、理想とするスマート農業はできないと思う。

将来、担い手がいない中、このような農地をどのようにして維持し、耕作放棄地を出さないようなやり方を考えているのか伺う。

④ 農家の収入増を妨げている要因は冬季間農業ができず、年間を通して安定した収入が得られない点である。

町は6次産業にようやく目を向け、サツマイモの加工での商品化を食料農大と連携して進める計画のようだ。これは進めていていただきたいが、ほかの6次産業は今の段階では考えていないのか伺う。

⑤ オーガニックビレッジの取組について。
農林水産省は「みどりの食料システム戦略」が2050年までに目指す姿と取組を下記のように目標を立てている。

○2050年までに化学農薬使用量（リスク換算）の50%低減。

○化学肥料は2050年までに輸入原料化石燃料を原料とした化学肥料の使用料の30%を低減。

○有機農業では2050年までにオーガニック市場を拡大しつつ、耕作面積に占める有機農業の取組の割合を25%（100万ha）に拡大する。

以上を目標に上げている。

そこで、農林水産省では、「みどりの食料システム戦略」を踏まえ、有機農業に地域ぐるみで取り組む産地（オーガニックビレッジ）の創出に取り組んでいる市町村に支援を行っている。

オーガニックビレッジとは有機農業の生産から消費まで一貫し、農業者のみならず、事業者や地域内外の住民を巻き込んだ地域ぐるみの取組を進める市町村のことをいい、農林水産省としてはこのような先進的なモデル地区を順次創出し、横展開を図っていこうとしている。

2025年までに100市町村、2030年度までに200市町村創出することを目標に全国各地での産地づくりを推進していて、既

	<p>に全国で 129 市町村が取り組んでいる。 新潟県でも佐渡市、新発田市、阿賀野市、 五泉市が本格的に取り組んでいて今では 先駆的でもなくなってきた状況だ。 農業立町を掲げている津南町としては、 本来ならどこよりも早く手を挙げて全国 に先駆けてどこよりも早く取り組んでい ただきたかったと思う。</p> <p>ただおいしいだけで農産物をアピールす るだけでなく、農薬・化学肥料を使わな い「安全で安心で、しかもおいしい」と いうことを売りにしなければ、世間から 世界から相手にされない時代がきてい る。</p> <p>津南町も至急オーガニックビレッジに取 り組んでいただきたいが、お考えはある か伺う。</p>	
--	---	--

※質問項目が変わる場合は罫線で分割してください。